

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 28 年 9 月

### ○ 概要

(1) 平成 28 年 9 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,026 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲3.9%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,107 円（伸び率▲5.0%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,487 億円（伸び率 1.2%）、薬剤料が 4,529 億円（伸び率▲5.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 703 億円（伸び率 3.3%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,655 円	2.82 種類	23.7 日	85 円
伸び率（%）	▲7.6	▲2.2	+2.9	▲8.3

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,742 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲262 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 821 億円（伸び幅▲78 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 11 億円（総額 244 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,742 億円 （▲262 億円）	21 循環器官用薬 （821 億円）	11 中枢神経系用薬 （638 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（528 億円）
0 歳以上 5 歳未満	34.3 億円 （▲6.1 億円）	44 アレルギー用薬 （15.1 億円）	61 抗生物質製剤 （8.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （4.9 億円）
5 歳以上 15 歳未満	74.6 億円 （▲13.3 億円）	44 アレルギー用薬 （30.7 億円）	11 中枢神経系用薬 （15.2 億円）	61 抗生物質製剤 （10.4 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,296 億円 （▲90 億円）	11 中枢神経系用薬 （274 億円）	21 循環器官用薬 （247 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（193 億円）
65 歳以上 75 歳未満	947 億円 （▲80 億円）	21 循環器官用薬 （249 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（157 億円）	11 中枢神経系用薬 （111 億円）
75 歳以上	1,390 億円 （▲72 億円）	21 循環器官用薬 （323 億円）	11 中枢神経系用薬 （237 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（173 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,107 円（伸び率▲5.0%）で、最も高かったのは京都府（10,933 円（伸び率▲5.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,920 円（伸び率▲7.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率▲2.4%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率▲13.7%）であった。（→P.27~28）

## 《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】703 億円（伸び率：3.3%、伸び幅：22 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	66.5%	+7.3%
薬剤料ベース	15.5%	+1.3%
後発品調剤率	66.5%	+3.7%
（参考）数量ベース（旧指標）	44.5%	+4.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.3%	+12.3% （45 歳以上 50 歳未満）	▲10.1% （10 歳以上 15 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.5%	16.5% （75 歳以上）	9.9% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	624 億円 （+17 億円）	21 循環器官用薬 （176 億円）	23 消化器官用薬 （107 億円）	11 中枢神経系用薬 （75 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.6 億円 （+0.1 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.1 億円）	61 抗生物質製剤 （1.3 億円）	44 アレルギー用薬 （1.2 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.6 億円 （▲0.8 億円）	44 アレルギー用薬 （4.0 億円）	61 抗生物質製剤 （2.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	203 億円 （+5 億円）	21 循環器官用薬 （49 億円）	11 中枢神経系用薬 （32 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）
65 歳以上 75 歳未満	161 億円 （+1 億円）	21 循環器官用薬 （57 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	245 億円 （+12 億円）	21 循環器官用薬 （70 億円）	23 消化器官用薬 （49 億円）	11 中枢神経系用薬 （31 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,062 円	1,404 円（岩手県）	893 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1%	+6.9%（徳島県）	▲2.4%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	66.5%	78.3%（沖縄県）	56.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.5%	20.1%（鹿児島県）	12.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	66.5%	77.2%（沖縄県）	60.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	44.5%	55.4%（沖縄県）	38.4%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 9 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。